

# コロナ禍における子どもの 貧困と孤立の現状と課題

～少女支援から見えてきたことを中心に～

村木 厚子

# (一社)若草プロジェクト



Little Women Project  
若草プロジェクト

設立 2016年3月

## 役員

代表理事	大谷恭子	弁護士	
統括理事	村木太郎		大正大学地域構想研究所教授、(NPO)ストローク会理事長
理事・事務局長		牧田史	弁護士
理事	遠藤智子		(一社)社会的包摂サポートセンター事務局長
理事	瀬尾まなほ		瀬戸内寂聴秘書
理事	佐藤加奈		(社福)日本身体障害者団体連合会 事務局次長
理事	佐藤静江		社会福祉士・精神保健福祉士
理事	福田万祐子		福田医院 統括・株式会社ユーコー 代表取締役
監事	塩生朋子		弁護士

## 代表呼びかけ人

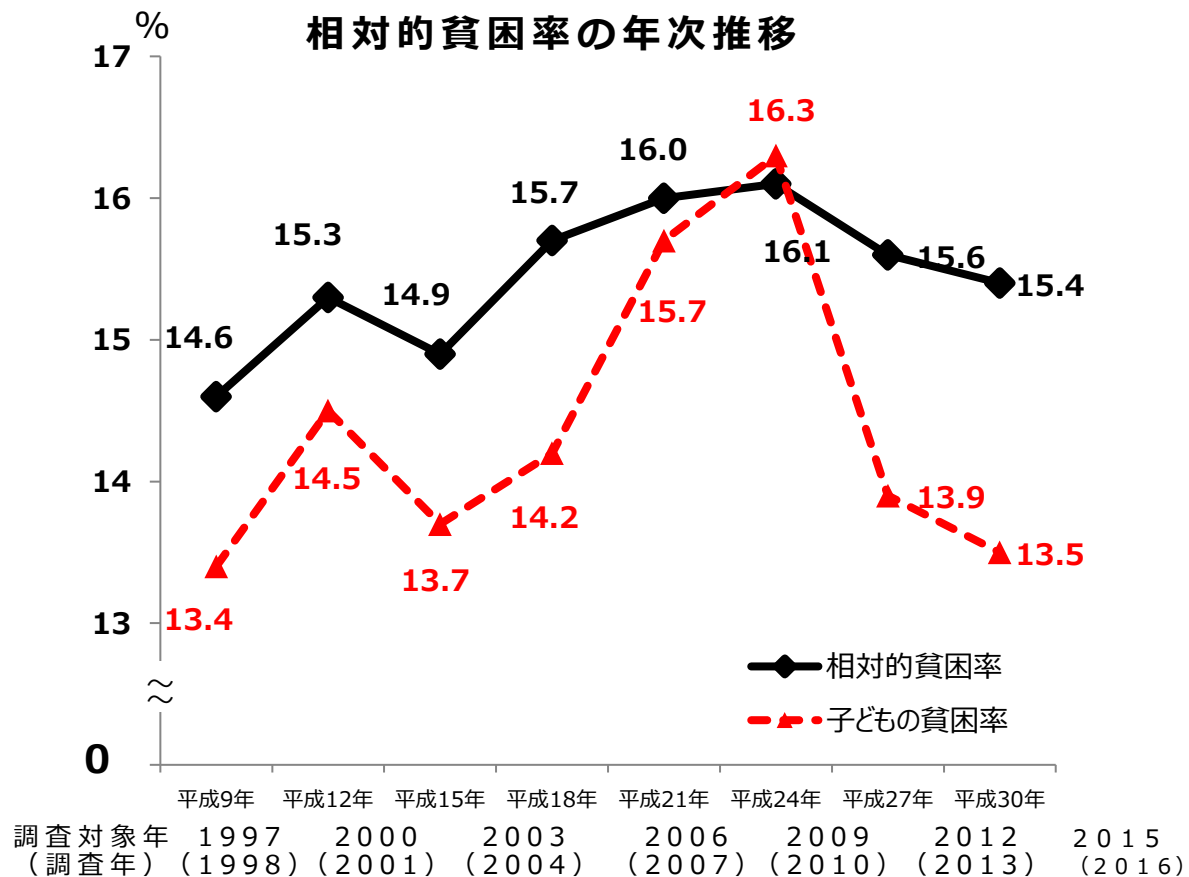
瀬戸内 寂聴(作家、僧侶)、村木 厚子(元厚生労働事務次官)

## 呼びかけ人

千葉景子	日本更生保護女性連盟会長、元法務大臣	山田洋次	映画監督
小津博司	弁護士、元検事総長	菊地裕太郎	弁護士、前日弁連会長
小室 等	ミュージシャン	道浦母都子	歌人
上野千鶴子	(NPO)WAN理事長、東京大学名誉教授	浅倉むつ子	早稲田大学名誉教授
熊坂義裕	医師、(一社)社会的包摂サポートセンター代表理事	堂本暁子	元千葉県知事

# 子供の貧困と貧困の連鎖

## 子供の貧困率が上昇傾向にある

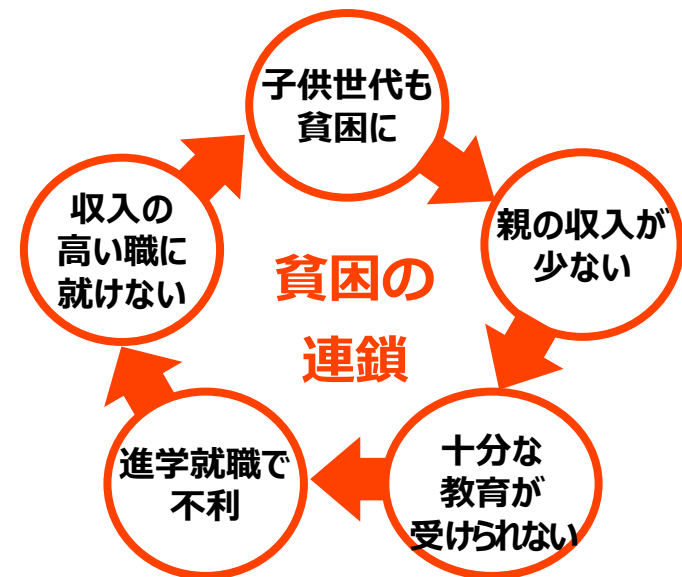


## 貧困の状況にある子供の進学率は比較的低い

全世帯の子供の現役大学等進学率	83.5%
生活保護世帯の大学等進学率	35.3%
ひとり親家庭の子の大学等進学率	58.5%
児童養護施設の子の高校卒業後進学率	27.1%

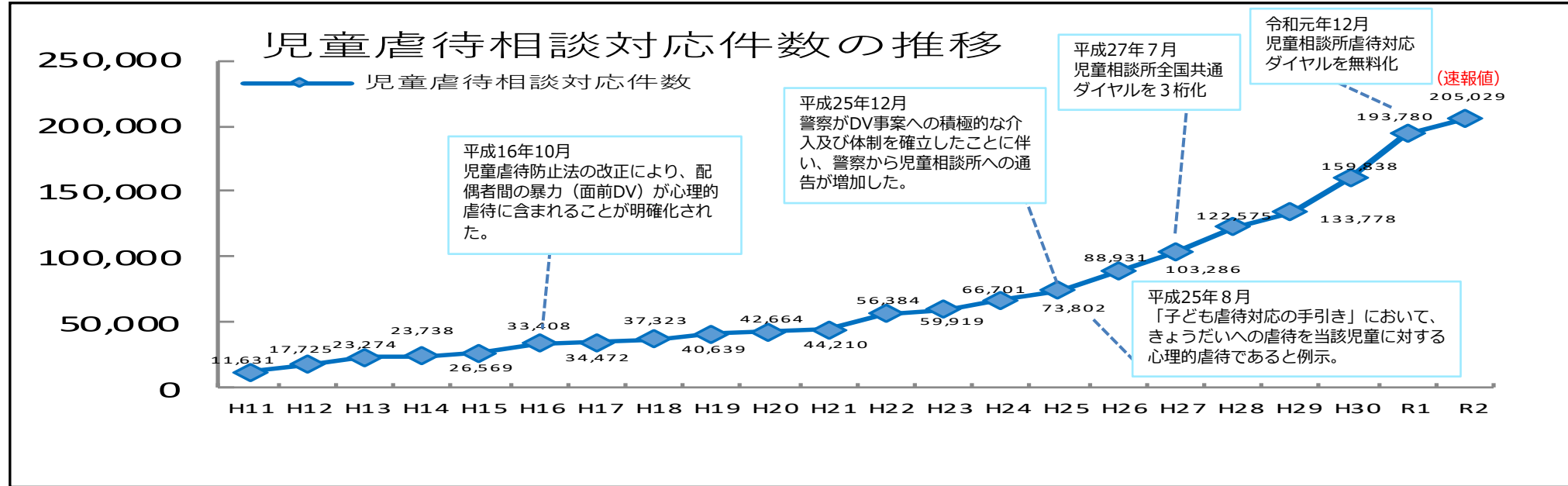
(出所) 生活保護世帯の子は厚労省 社会・援護局保護課調べ (平成29年4月1日)、  
 児童養護施設の子については、厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課調べ (平成29年5月1日)、  
 ひとり親家庭の子については：平成28年度全国ひとり親世帯等調査 (特別集計) / 全世帯については令和  
 2年学校基本調査

## 貧困の状況は次世代に連鎖する



# 児童虐待の相談件数は年々増加している

- 令和2年度における児童相談所の児童虐待相談対応件数は、205,029件（速報値）。平成11年度に比べて約18倍。
- 心理的虐待の割合が最も多く（59.2%）、次いで身体的虐待の割合が多い（24.4%）。
- 相談経路は、警察等（51%）、近隣知人（13%）、家族（7%）、学校等（7%）からの通告が多くなっている。



### ○ 虐待相談の内容別割合

	身体的虐待	ネグレクト	性的虐待	心理的虐待	総数
令和2年度 (速報値)	50,033(24.4%) (+793)	31,420(15.3%) (-1,925)	2,251(1.1%) (+174)	121,325(59.2%) (+12,207)	205,029(100.0%) (+11,249)

### ○ 虐待相談の相談経路

	家族	親戚	近隣知人	児童本人	福祉事務所	児童委員	保健所	医療機関	児童福祉施設	警察等	学校等	その他	総数
2年度 (速報値)	14,091 (7%) (+931)	2,672 (1%) (+33)	27,641 (13%) (+2,356)	2,115 (1%) (+452)	8,264 (4%) (-626)	210 (0%) (±0)	233 (0%) (+1)	3,427 (2%) (-248)	2,953 (1%) (+82)	103,619 (51%) (+7,146)	14,675 (7%) (+153)	25,129 (12%) (+1,275)	205,029 (100%) (+11,249)

# 少女たちが危ない

SNSを使った誘拐や性被害  
援助交際、家出、神待ち、泊め男  
JKビジネス、AV被害、クスリ  
デートDV、#MeToo

↓  
社会の見方

モラルの低下？自己責任？注意の欠如？

**どうもそうじゃない！**

**背後に様々な生きづらさがある（虐待、貧困、いじめ、孤立・・・）  
とりわけ性被害（性暴力、性虐待、性搾取）の影響が深刻**

# 若草プロジェクトの活動

直接支援

間接支援  
(支援現場の支援)

つなぐ

生きづらさを抱えた少女や若い女性たちと支援者をつなぎ、支援者と支援者、支援の現場と企業や社会をつなぎます

まなぶ

少女や若い女性たちの現状を理解し、支援の方法を学ぶため、連続研修会を実施します。また、支援者のためのマニュアルを発行しています。

ひろめる

少女や若い女性たちの問題の深刻さを社会に広く訴えます。

- ・LINE相談の実施
- ・若草ハウスの運営
- ・まちなか保健室(新規)
- ・企業と支援の現場を結ぶ活動
- ・若草メディカルサポート基金
- ・**TsunAが〜る(新規)**
- ・「女の子たちの今」を知り「信頼される大人」になるための連続講座
- ・少女 若年女性を支援する人のためのハンドブック
- ・若草チャンネル(新規)
- ・シンポジウムの開催(今年はオンライン報告会)
- ・広報活動



# 若草プロジェクト LINE相談とは



- ◇ 悩みや生きづらさを抱える  
10代、20代の女性の相談窓口
- ◇ 費用は無料
- ◇ 相談内容を無断で親や学校に  
伝えることはない
- ◇ 必要に応じて専門機関を紹介  
緊急性が高い場合は弁護士等が対応

## LINEで相談する

まずはLINEでお友だち追加してください。

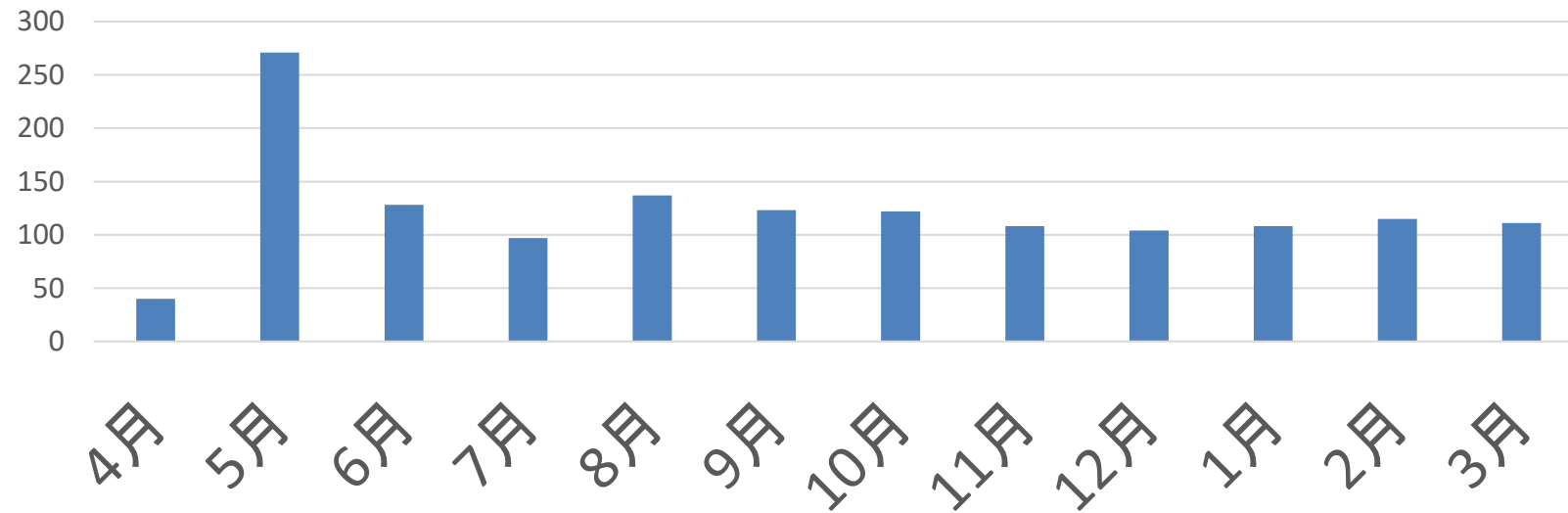
LINE 友だち追加



@wakakusa

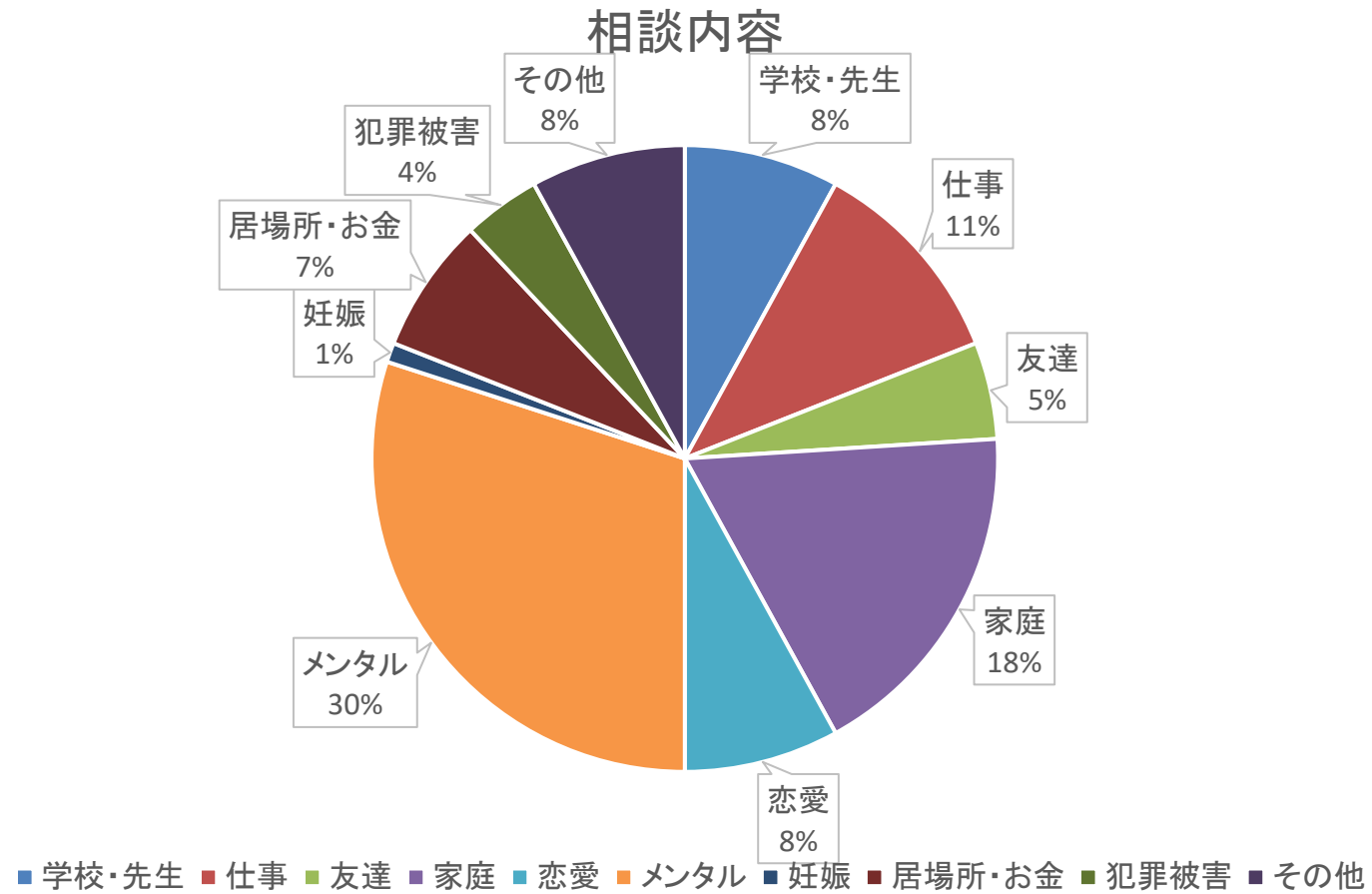
「わたしたちはあなたの味方です」

# LINE相談件数

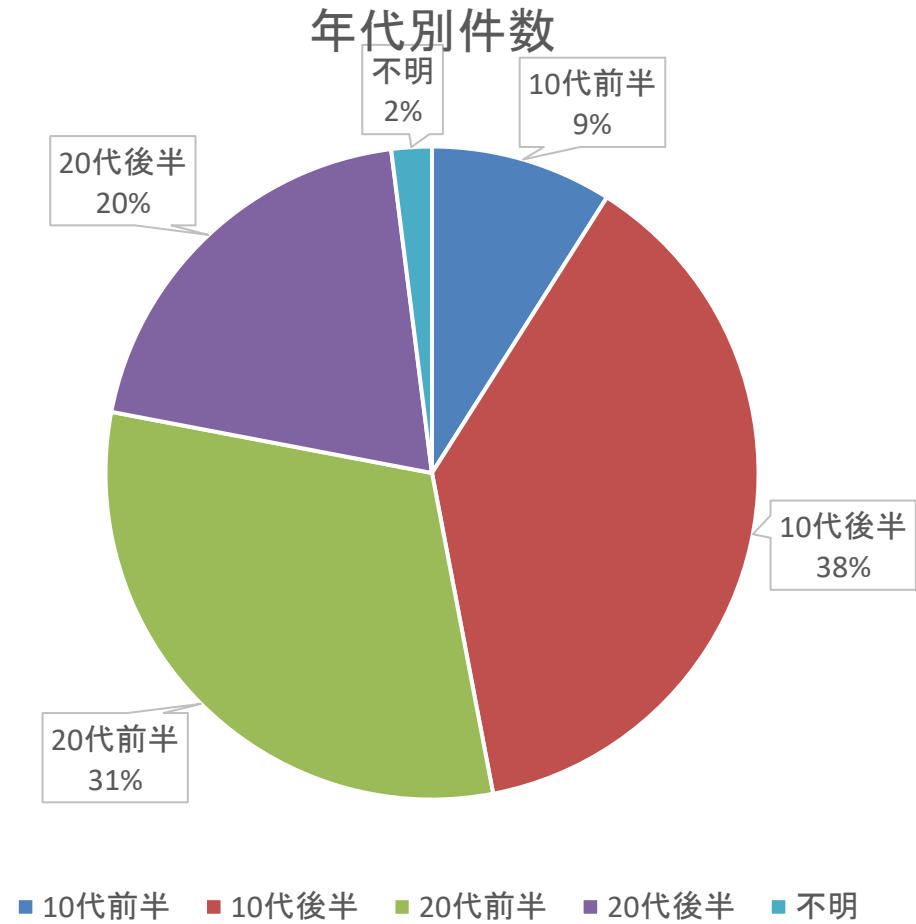




# 相談内容



# 年代別件数



コロナの影響で1ヶ月ほど仕事が休み  
で

21:11

...ですが、コ  
ロナで家にいなければならず居場所がないです。

逃げ場がないです

18:46

死んでしまいたい

22:04

# 支援者の言葉から

- もともと崖のそばに立っていた子たちが、さらに崖っぷちに追いやられている。さすがにこのままでは落ちると思って相談してくれた(若草プロジェクト相談員)
- 食べ物を送ると、ものすごく感謝された。お礼の電話がかかって来て、しばらく話しているうちに、「実は・・・」と相談をしてくれた(アフターケア事業所所長)

コロナ下の女性への影響と課題に関する研究会報告書  
(令和3年4月28日)より

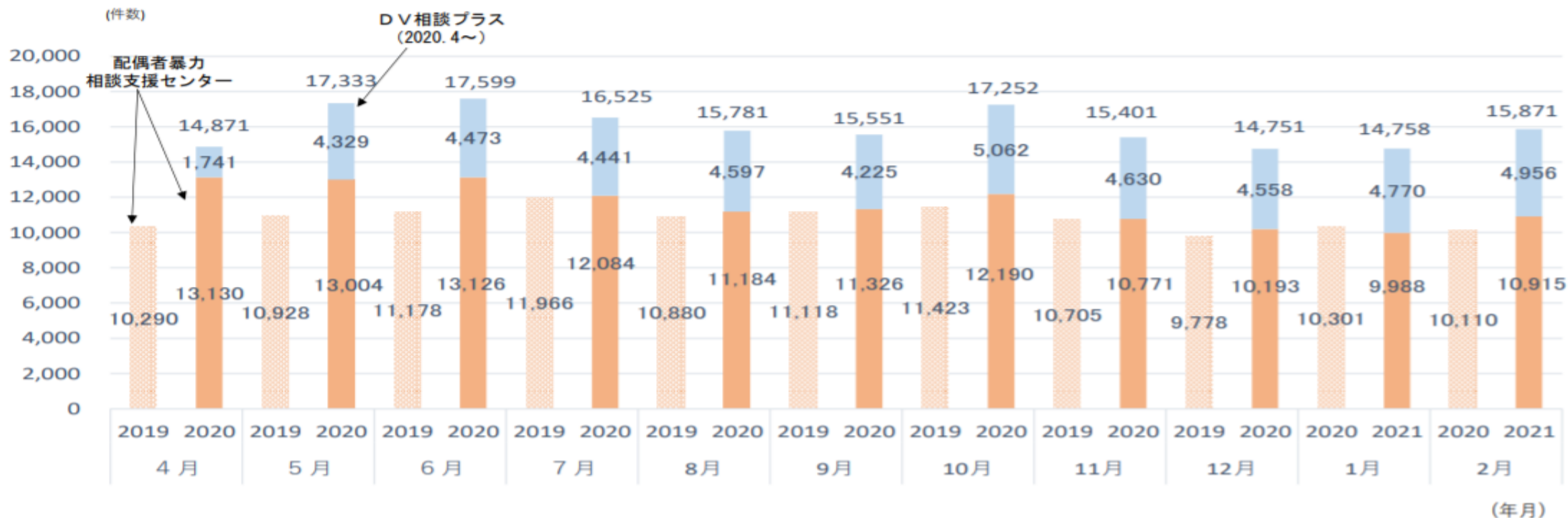
# DVは1.5倍に

図-1

## DV相談件数の推移

行政統計等

- ✓ DV相談件数の推移を見ると、2020年4月から2021年2月の相談件数は、17万5,693件で、前年同期の約1.5倍。
- ✓ 既に昨年度（2019年度）全体の相談件数（11万9,276件）を大きく上回っている。



(出典) 内閣府男女共同参画局調べ ※全国の配偶者暴力相談支援センターからの相談件数は、令和3年3月31日時点の暫定値。

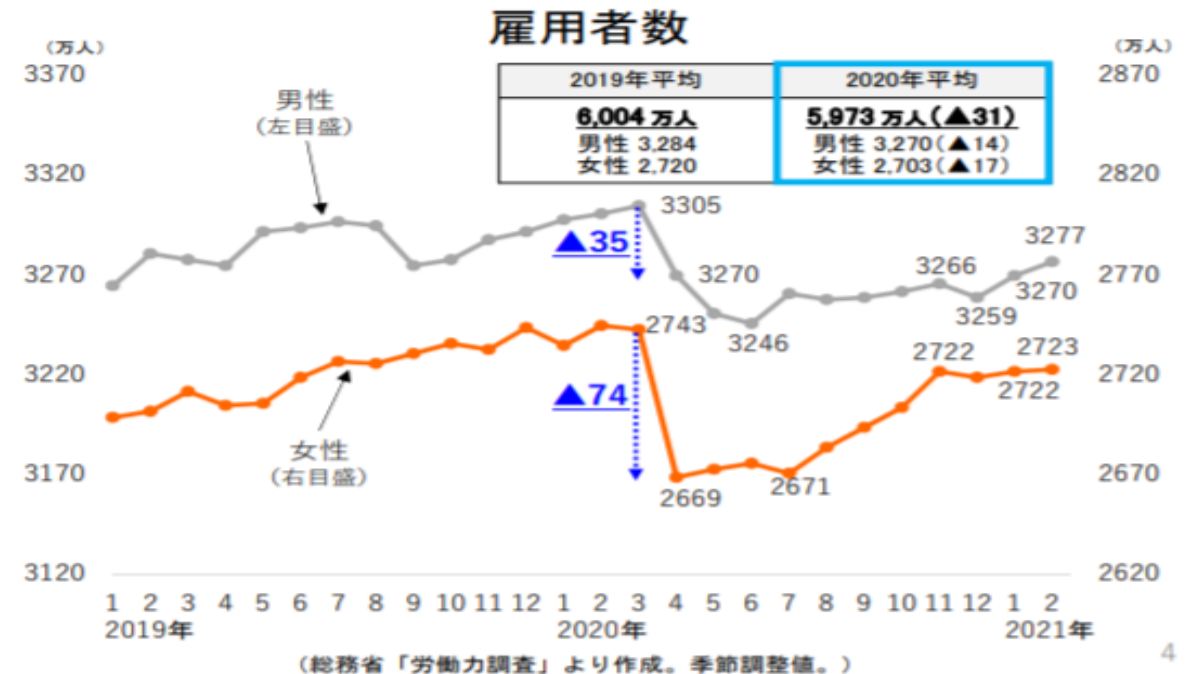
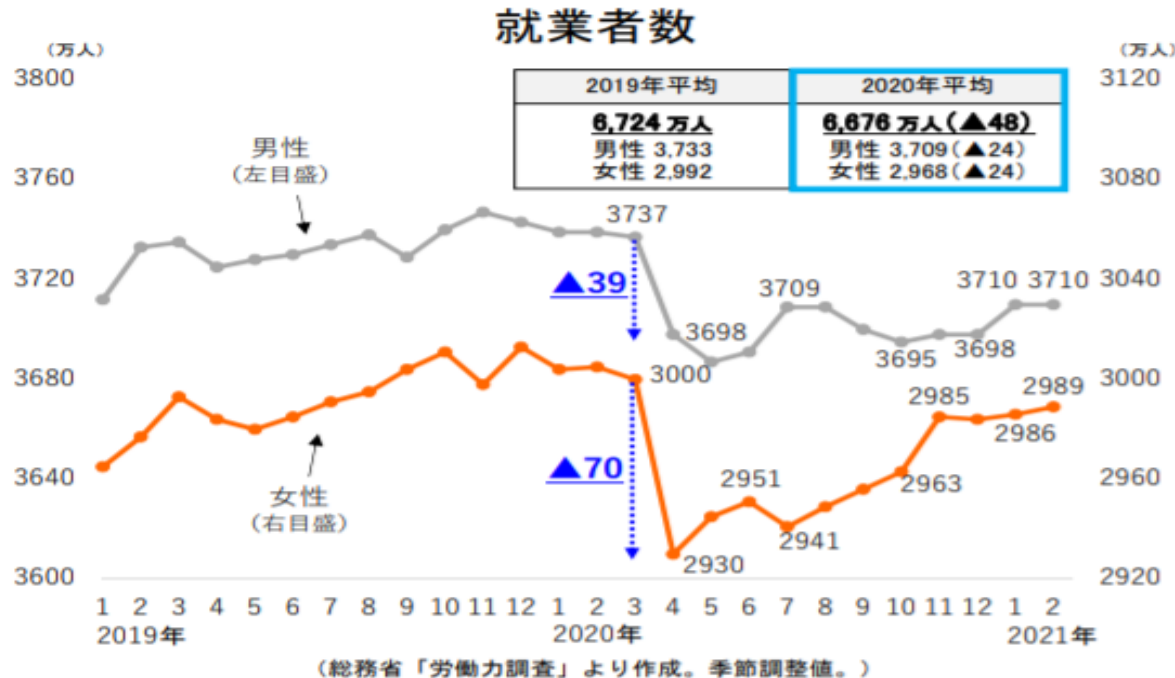
# 女性の雇用・就業が大幅に減った

図-3

## 就業者数・雇用者数の推移

総務省「労働力調査」

- ✓ 就業者数は、男女とも2020年4月に大幅に減少。特に女性の減少幅が大きい。（男性：39万人減、女性：70万人減）年平均では、男女とも24万人の減少となった。2021年2月は、男女とも横ばい。
- ✓ 雇用者数は、男女とも2020年4月に大幅に減少。特に女性の減少幅が大きい。（男性：35万人減、女性：74万人減）年平均では、男性は14万人の減少、女性は17万人の減少となった。2021年2月は、男性は増加、女性は横ばい。





# とりわけ非正規労働者に大きな影響

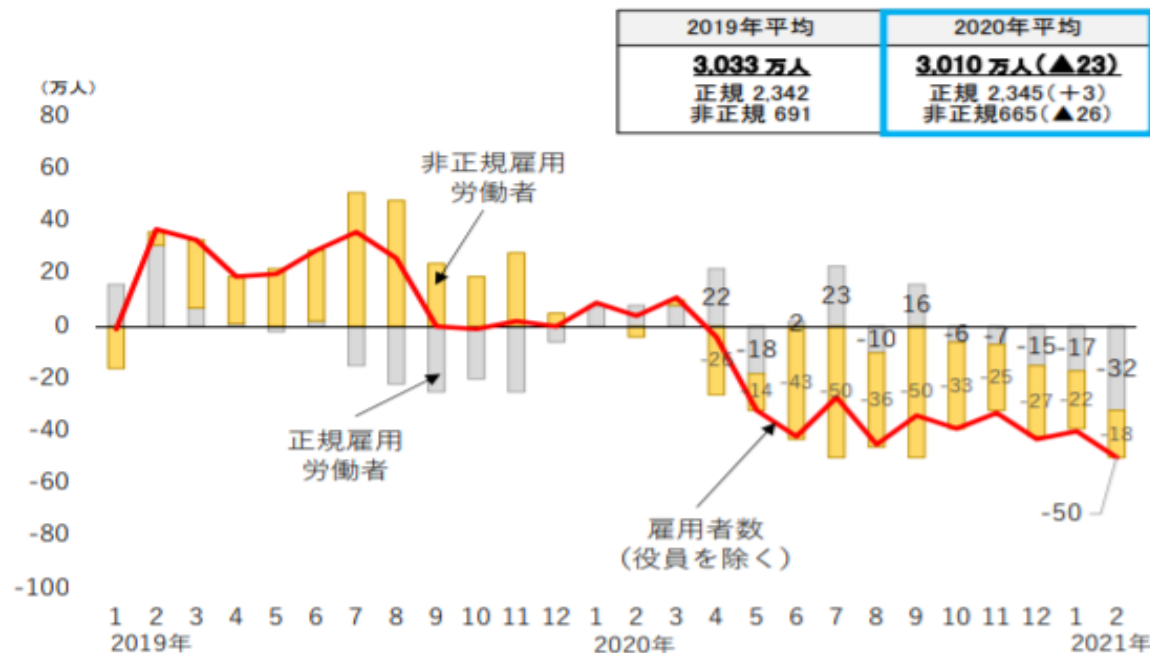
図-7

## 雇用者数（役員を除く）の推移

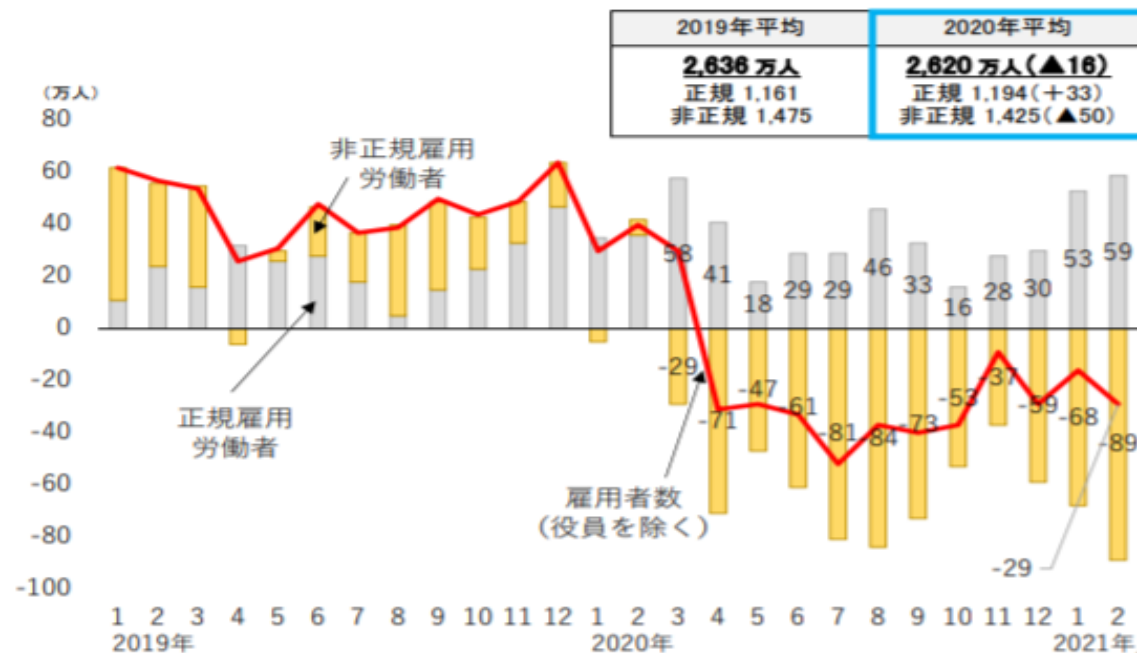
総務省「労働力調査」

- ✓ 女性の雇用者数（役員を除く）は、正規雇用労働者の増加が続く一方、非正規雇用労働者は2020年3月以降12カ月連続で減少。
- ✓ 年平均で見ると、男女とも対前年で正規雇用労働者は増加する一方、非正規雇用労働者は減少。特に女性の非正規雇用労働者の減少幅が大きい。（男性：26万人減、女性：50万人減）

### 雇用形態別雇用者数の前年同月差（男性）



### 雇用形態別雇用者数の前年同月差（女性）



（総務省「労働力調査」より作成。原数値。）

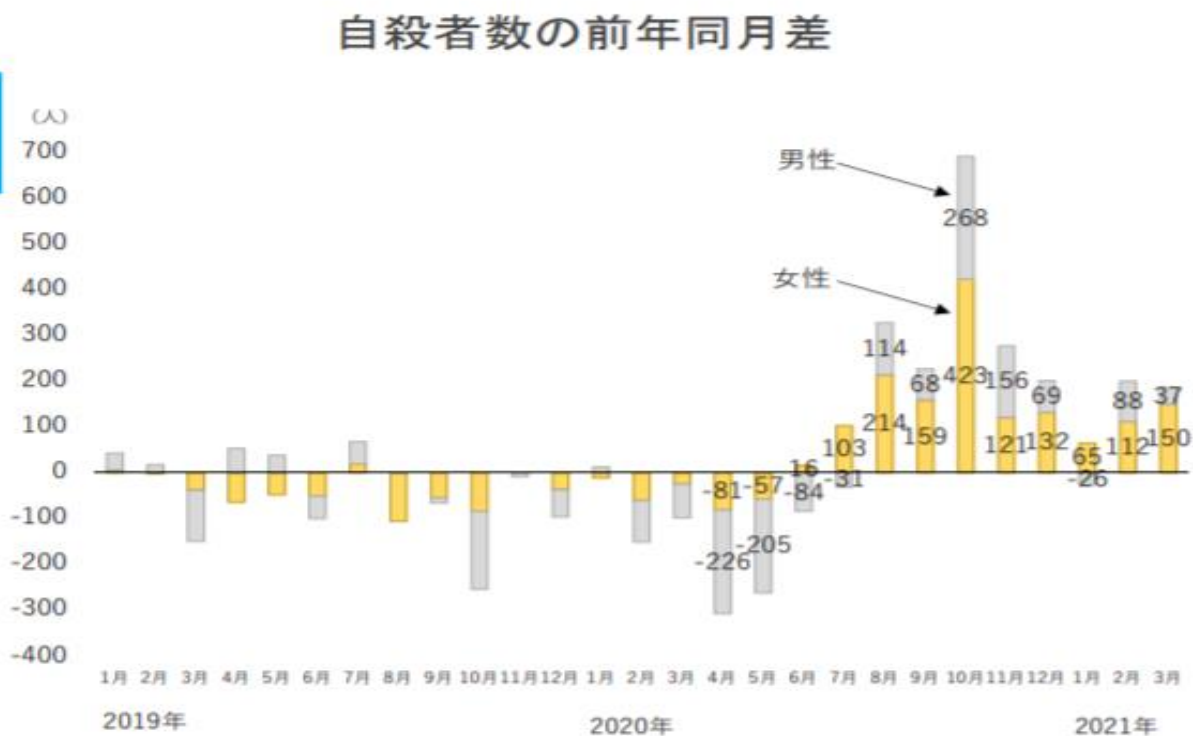
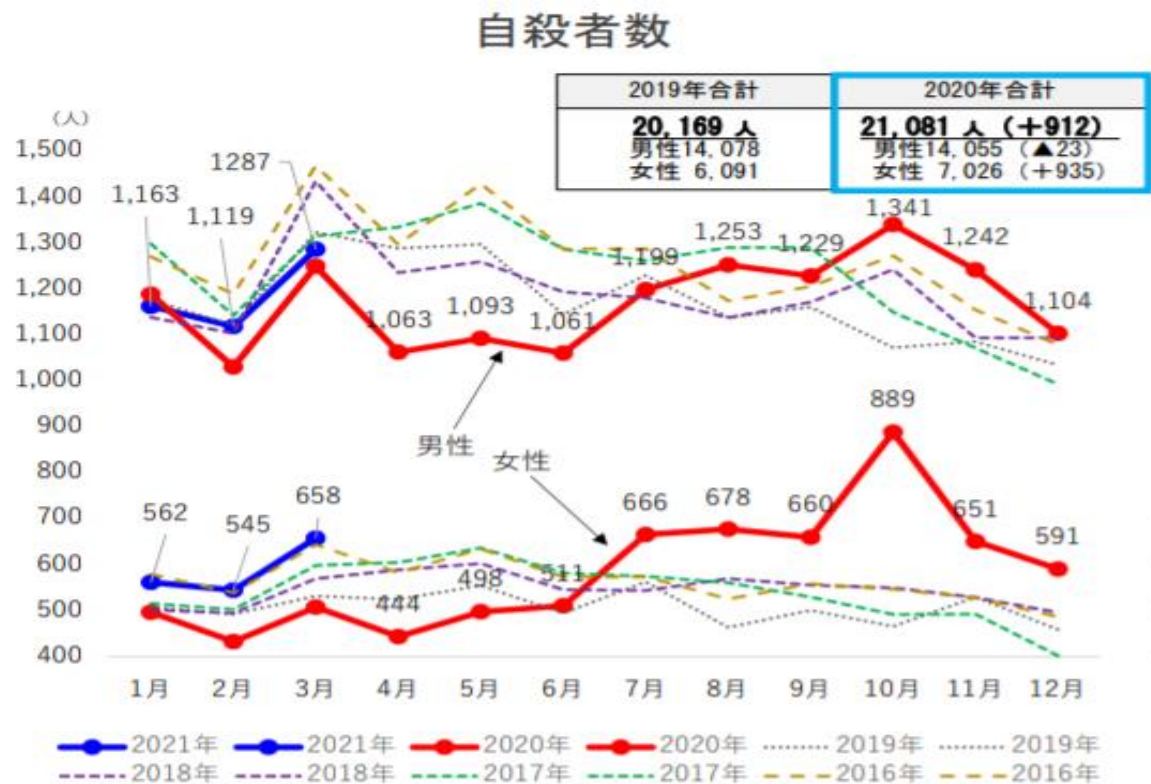
# 女性の自殺は急増した

図-34

## 自殺者数の推移

行政統計等

- ✓ 女性の自殺者数は、2021年3月は658人で、対前年同月150人増加。対前年同月では10か月連続の増加。
- ✓ 2020年合計では、男性は対前年で23人の減少であったが、女性は935人の増加。



(警察庁HP「自殺者数」より作成。原数値。2020年分までは確定値。2021年分は2021年4月16日時点の暫定値。)

# 自殺は「主婦」や「高校生」で急増

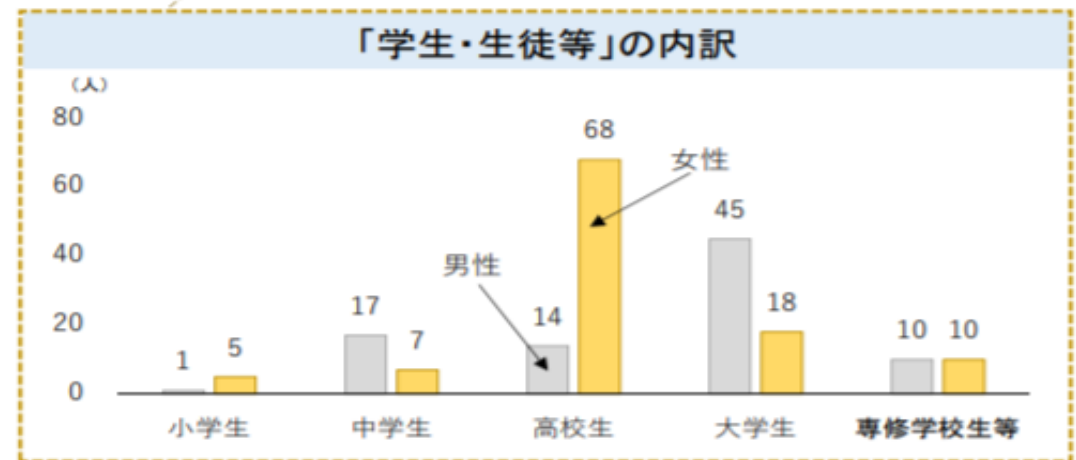
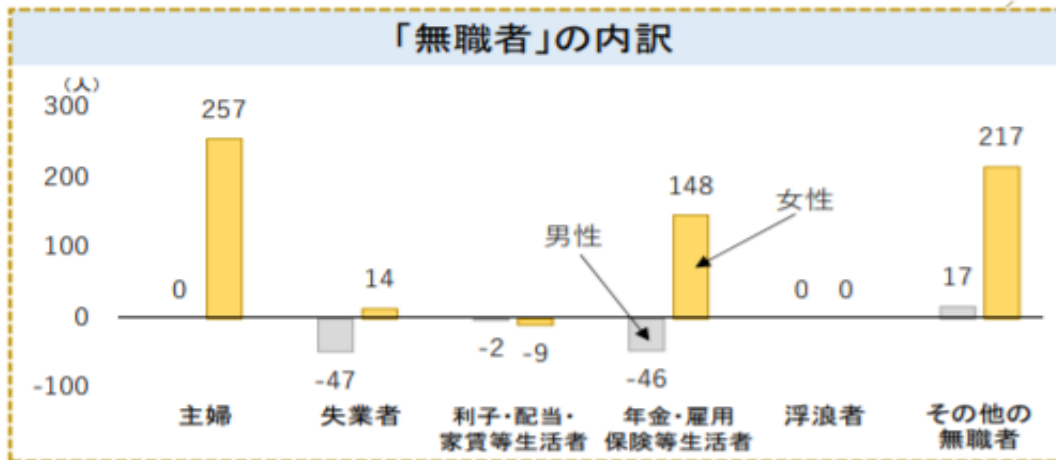
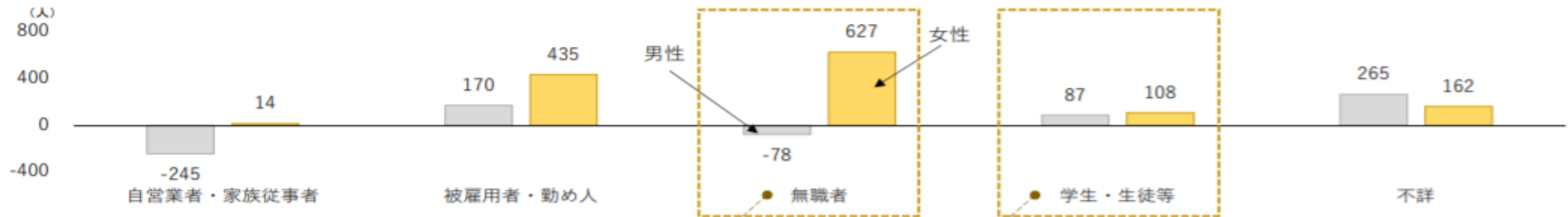
図-35

自殺者数の増減

行政統計等

✓ 女性は、「無職者」では「主婦」が、「学生・生徒等」では「高校生」が、特に増加。

職業別の自殺者数の前年同月差(2020年4月～2021年3月の累計)



(厚生労働省HP「自殺の統計」より作成。2020年分までは確定値。2021年分は2021年4月21日時点の「地域における自殺の基礎資料」の暫定値。)

# 若い相談者に聞いてみた

## 相談してくるのはどんな人、どんな時？

- もやっとした感情の整理をつけたい
- アドバイスが欲しい
- 自分の考えを否定せずに聞いて欲しい
- 寂しい
- 公的機関の大人を信用していない
- 見知らぬ誰かに自分の悩みや思いを打ち明けたい
- いい意味で「普通の女の子」
- 自分の現状に疑問や不満を持つことができ、  
言いづらいことを打ち明け協力を求める力を持っている人

# 苦しみの背景には何が？

- 家庭環境
- 周囲に相談できる大人がいない
- 立ち位置が不安定/解決手段が少ない/見通しが立ちづらい環境
- 寂しさ、孤独
- 悩みや愚痴を吐き出す場所がない
- 自己肯定感の低さ
- 精神疾患や発達障害

# どんな大人に相談したい？したくない？

- 頭ごなしに否定をしてこない大人
- 自分の味方でいてくれる
- 話をきちんと聞いてくれる 適当に流さない
- 意見を押し付けてこない
- 秘密を守り、相手の話すことを否定せず信じてくれる人
- 悩みを悩みのまま聞いてくれ、解決の道に導いてくれる人



# どんな大人に相談したい？したくない？

- 学校の先生は口が軽い（他の教師と情報共有してしまう）
- 先生によって当たりはずれがある
- 利害関係がない一方で、いざとなったら助けてくれる  
実行力のある大人が必要
- プライドが高い人ほど周りを頼れない  
顔を知らない、LINE相談のような機関に頼るのがいい
- アドバイスを押しつけてくる人には相談しない



# 「こんな取り組みがあれば」というものは？

## 【心の健康状態を知る仕組みづくり・居場所づくり】

- 学校の健康診断のように、困りごとがある子もない子も定期的にカウンセラーなどと話しができる機会（何か支援が必要な状況だと判明すれば、適切な支援先に繋げてもらえる）。心の健康診断
- 教育機関から卒業した人の（オンライン）居場所作り
- 自助グループのような居場所（まちなか保健室の機能を、抱えている生きづらさによって細分化したような場所、同じような悩みを持った少女たちが繋がりを、悩みを吐露したり、世間話ができる場所）。オンラインで話せる場所でも

# 「こんな取り組みがあれば」というものは？

## 【必要とされている情報提供】

- インターネットでのトラブル、男女間でのトラブルが多いように感じているので、1次予防を行う。例えば、SNSの使い方や性的同意についての啓発活動(性的同意ハンドブックはインターネットからダウンロードできるので見てもらえやすそう)
- 死にたい気持ちそのものについての対処法

# 「こんな取り組みがあれば」というものは？

## 【支援のプラットフォームづくり】

- 資源の有無の地域格差や、閉鎖的な地域性により公的機関を使えない問題について、自治体内だけでなく、多自治体（近隣のみならず）や複数のNPOがグループになって補完しあうシステム
- どこにどんな支援機関があるのか、検索できる全国統一の専用のインフラ（個人情報共有できなくても、どんな支援機関があるのかを網羅的に掲載し、支援機関同士でオンライン上で相談・連携し合えるネットワークが公的に構築されていたら、緊急性の高い事例に相談員の力量等に左右されず、必要な支援の提供が可能）

# 「こんな取り組みがあれば」というものは？

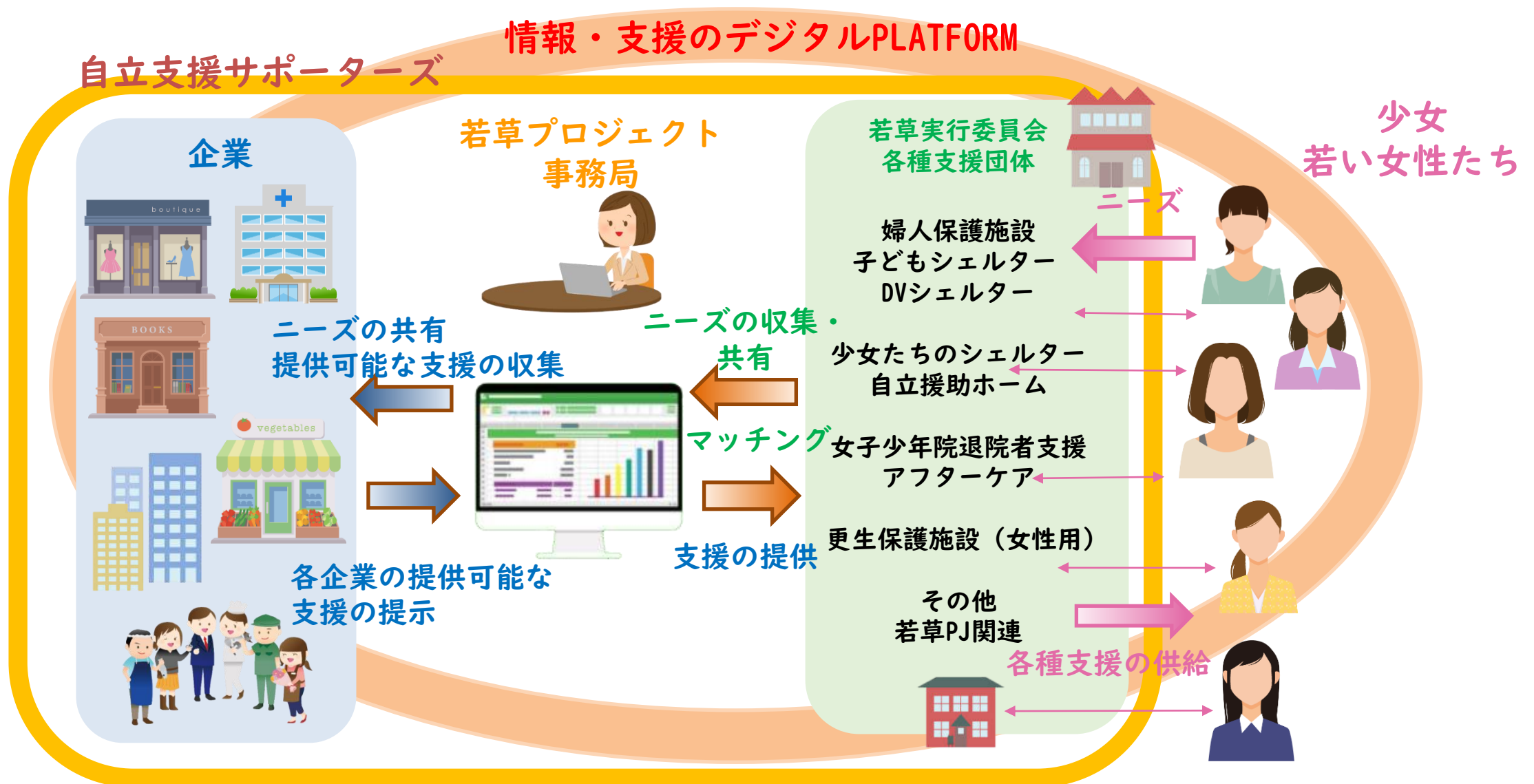
## 【大人がもっと彼女たちを知る仕組み】

- 地域／学校の子どもたち（小学生から）と遊ぶなどの交流機会（大人は子どもたちが抱える悩みを知る機会となったり、子どもは気軽に相談していいんだと思える大人の存在を身近に作るきっかけとなる）
- 私たちよりももっと上の人たちが、もっと私たちの思いに触れられる時間を作る（実際に自治体の上の方の人とかにも悩みを知ってもらおうなど）

# 「こんな取り組みがあれば」というものは？

## 【発信方法にもっと工夫を】

- ターゲット層に向けて話しかけるYouTube
- インスタで「こういうことがあったら要注意妊娠編／いじめ編」  
「個別に相談したい方はこのLINEで」…といった文字の投稿
- もっとメディアに取り上げてもらうなど、社会的認知度向上を目的としたイベントの企画（LINE相談へつながる）
- 駅の女子トイレに貼り紙をする（DV被害や性被害の団体が貼っているのを見かける）



# 企業と支援の現場を結ぶ活動

## ・連携している施設

(全国にある施設数)

婦人保護施設	家庭環境の破綻、生活困窮で困難を抱える女性を保護	48
子どもシェルター	10代後半の子供達の自立のための一時避難	21
全国女性シェルターネット	DV被害者支援	67
自立援助ホーム	家庭にいられない10代後半の子供達の支援	129
アフターケア	児童養護施設や里親を巣立った子どもたちの相談	10
女子少年院退院	保護者のいない退院者支援	9
BONDプロジェクト、Cobba、若草ハウス	10-20代の女性の相談&シェルター保護	3
女子更生保護施設	刑務所・少年院を出て家族の援助のない人の社会復帰支援	15
若草PJ連携施設	若草PJと独自につながっている女性支援施設	26
その他	地域の男女参画センター他	4

## ・連携している企業

包括協定 ファーストリテイリング・日本生命保険

資金協力：日本産業パートナーズ

調査協力：ロート製薬

支援提供：大王製紙・ハウス食品グループ・タキヒヨー（株）・石井造園

(2021年3月現在)



# 社会システムの変化

